

校長漫筆記

自分の未来を拓く「黄金サイクル」の確立

前号で、「今日からの授業、今日からの家庭学習の姿勢をガラリと変えてみませんか。」と皆さんに問いかけました。きっと多くの人が、「では、具体的にどのような姿勢で臨めばいいのだろう」と考えてくれていることと思います。そこで、間隔を置かずに伝えることが何より大切だと考え、今週は週の始まりである月曜日にこの次号を発行しました。



今回は、小学校教員としての歩みが長かった私からの一方的な話ではなく、高校現場で長年、多くの生徒を導いてきた先生方の実践を参考に、具体的なアドバイスを送ります。

多くの生徒が挑むことになるであろう大学受験。毎年1月に行われる「大学入学共通テスト」は、国公立大学を目指す人には原則必須であり、最近では私立大学でもこのテストを利用する入試が急増しています。まずはこのテストで確実に得点を積み重ねることを目標にする人は多いでしょう。

ここで知っておいてほしいのは、このテストで出題される問題の大部分は「1・2年次で学ぶ内容」であるという厳然たる事実です。「3年生になってからやればいい」は通用しません。「あの時ももう少し頑張っていれば……」と後悔しないために、今、この瞬間からの積み重ねが求められているのです。

高校の学習現場で最も重要視されるスタイル、それが「予習 → 授業 → 宿題・復習」のサイクルです。高校では、「黄金サイクル」と呼ばれるとのことです。

『予習』 教科書をじっくりと読み、「理解できないところ」「先生に質問したいところ」をメモしておく。

『授業』 先生の説明を聞きながら予習時の疑問を解決し、重要だと思ったことをノートに書き留める。

『宿題・復習』 学んだことを整理して解き直し、知識を脳にしっかりと定着させる。

授業を本当の意味で自分のものにするには、このサイクルが最も効果的です。「中学時代からやっていた」という人も多いはずですが、厳しい高校受験を乗り越え、期待の1期生として本校に入学してきた皆さんには、それができる高いポテンシャルが間違いなくあります。今一度、その力を存分に発揮し、この「黄金サイクル」を日常の型として確立させましょう。

「将来やりたいことがまだ見つからない」「進むべき道が決まらない」という人がほとんどかもしれません。だからこそ、今が大切な時期なのです。

この不安定な時期に学習の手を抜いたり、目標を下げてしまったりすると、3年次になって「行きたい大学」「やりたいこと」が見つかった時、「受験科目が足りない」「学力が届かない」と、自分自身の未来の扉を自ら閉ざしてしまうことになりかねません。私は、皆さん自身の手で未来の切符を掴み取ってほしいと切に願っています。

高い目標を持ち、自ら進んで学び、仲間と共に高め合う。そんな熱いエネルギーに満ちた1期生へと脱皮していく姿を、私は全力で応援し、見守っています。